

頸北等5商工会景況調査報告書

頸北等商工業振興協議会

- ・ 柿崎商工会
- ・ 大潟商工会
- ・ 頸城商工会
- ・ 吉川商工会
- ・ 名立商工会

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 柿崎・大潟・頸城・吉川・名立地区内小規模事業者等
イ 調査企業数 109 事業所 (うち小規模事業者数 96 事業所)
ウ 回答企業数 109 事業所 (うち小規模事業者数 96 事業所)
(回答率 100.0%)

(2) 調査対象期間

- 令和6年4月～令和6年9月
(調査時点 令和6年9月30日)

(3) 調査方法

- 経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	13	11.9%	13	11.9%
建設業	40	36.7%	40	36.7%
卸・小売業	19	17.4%	19	17.4%
サービス業	37	33.9%	37	33.9%
合計	109	100.0%	109	100.0%

商工会別	企業数
柿崎商工会	31
大潟商工会	28
頸城商工会	20
吉川商工会	15
名立商工会	15
合計	109

2. 地域内産業全体の景況概要

地区内景況はコロナ禍を脱し、全体的に回復基調にあると思われる。しかしながら、原材料やエネルギー価格などの高騰や賃金引上げ等による経費増加は収益を圧迫しており、価格転嫁が難しい事業所については、厳しい状況は続いている。

【後継者の状況】

後継者なしの回答が7割近くを占めている。事業承継の見通しが立たず、廃業を考える事業者も多い。

後継者 あり	34事業所	31.2%
後継者 なし	75事業所	68.8%

【売上高】

事業者によって明暗が分かれている。原材料等の高騰に伴い、価格転嫁を行った事業者では売上増加に繋がっている。

前年同期比

増加	不変	減少
26	41	41

前期比

増加	不変	減少
22	49	38

今後の見通し

増加	不変	減少
14	51	42

【採算】

採算性は不変という回答が多数ではあるが、原材料価格等の高騰により、悪化という回答も3割以上を占める。

前年同期比

好転	不変	悪化
12	58	39

前期比

好転	不変	悪化
11	58	40

今後の見通し

好転	不変	悪化
9	62	36

【仕入単価】

ほとんどの事業者が上昇と回答しており、低下との回答はほとんどない。この状況は今後も続くと思われる。

前年同期比

上昇	不変	低下
81	21	4

前期比

上昇	不変	低下
80	22	4

今後の見通し

上昇	不変	低下
67	34	4

【販売（客）単価】

販売単価は不変との回答が半数以上を占める。上昇との回答が低下を上回っており、価格転嫁の効果とも推察される。

前年同期比

上昇	不変	低下
31	60	15

前期比

上昇	不変	低下
30	60	16

今後の見通し

上昇	不変	低下
26	62	17

【資金繰り】

資金繰りは約8割が不変との回答である。悪化との回答も2割程度あり、経費増加の影響とも捉えられる。

前年同期比

好転	不変	悪化
5	78	25

前期比

好転	不変	悪化
4	79	25

今後の見通し

好転	不変	悪化
4	80	24

【雇用動向】

不変の回答が8割以上を占めるが、調査以前から人手不足を課題に上げる事業所が多く、悪い状況が不変であるものと推察される。

前年同期比

増加	不変	減少
5	87	14

前期比

増加	不変	減少
7	86	13

今後の見通し

増加	不変	減少
5	85	16

【景況判断】

景況判断は不変との回答が6割近くある。悪化との回答も4割近くあり、厳しい状況が続いていることが推察できる。

前年同期比

好転	不変	悪化
7	61	40

前期比

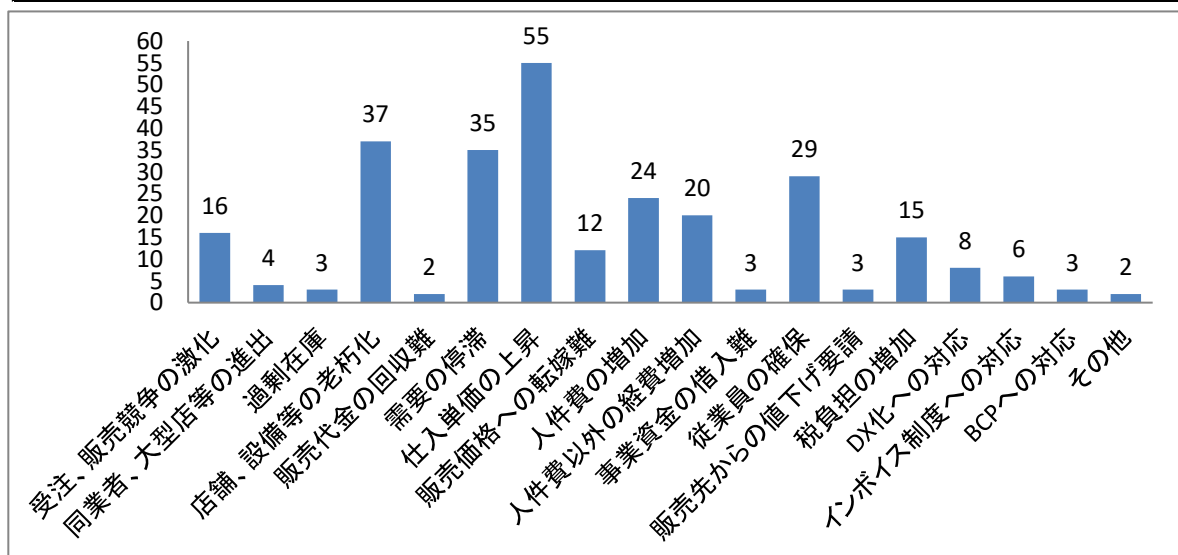
好転	不変	悪化
8	58	42

今後の見通し

好転	不変	悪化
7	62	38

【経営上の問題点】

問題点は、仕入単価の上昇が突出している。次に店舗設備等の老朽化、需要の停滞が続く。
従業員確保や人件費の増加などの回答も一定数あり、人手不足や賃金引上げへの対応が課題として浮かび上がっている。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

比較的価格転嫁が進んでおり、売上・採算共にコロナ過と比較し改善している。ただ仕入単価が上昇しており、今後の見通しは厳しい。また、「人件費の増加」と「従業員の確保」を問題点に上げる事業者が多い。

(2) 建設業

売上・採算については事業所ごとのバラツキが大きいですが、仕入単価については総じて上昇している。経営上の問題点で「仕入単価の上昇」と「人件費以外の経費増加」を上げる事業所が多い一方、販売単価は「上昇」と回答した事業所が少なく、価格転嫁が進んでいない状況が見て取れる。また、「従業員の確保」を問題点に上げる事業所も多く、人手不足や従業員の高齢化が顕著となっている。

(3) 卸・小売業

卸・小売業は依然として売上、採算ともに厳しい状況にある。要因としては地区外の大規模店舗への消費流出に加え、ネット販売の普及など消費動向の変化が要因と思われ、厳しい状況は今後も続くものと推察される。

(4) サービス業

仕入単価が上昇している中、価格転嫁ができない事業者は採算が悪化している。宿泊、飲食関係はコロナ禍から改善傾向にはあるが、依然として「需要の停滞」を問題点に上げている事業者も多い。理美容関係は、固定客の高齢化等による減少や格安店への顧客流出などが進んでいる。

(様式②)

No.

景況調査ヒアリングシート（令和6年

調査対象期間 令和 年 月～ 月

(調査時点 令和 年 月 日)

商 工 会 名	商工会	担当職員名	
企業 の 概 況	業 種	1：製造 2：建設 3：卸・小売業 4：サービス他	
	従業員数	1：0人 2：1人～2人 3：3人～5人 4：6人～20人 5：20人以上	
	企業区分	1：小規模事業者 2：小規模事業者以外	
	後継者の有無	1：有 2：無	

(1) 貴社の状況についてお答えください。(該当する番号に○を付してください)

	前年同期(令和●年●月～●月)と比較して	前期(令和●年●月～●月)と比較して	今期(令和●年●月)と比較した末期(令和●年●～●月)の見直し
売 上	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
採算(経常利益)	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
仕 入 単 価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
販売(客)単価	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下	1.上昇 2.不変 3.低下
資 金 繰 り	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化
雇 用 動 向	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少	1.増加 2.不変 3.減少
景 況 判 断	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化	1.好転 2.不変 3.悪化

(2) 貴社の経営上の問題点(下記より上位3つまでを選び、○を付してください)

- ①受注、販売競争の激化 ②同業者、大型店等の進出 ③過剰在庫
 ④店舗、設備等の老朽化 ⑤販売代金の回収難 ⑥需要の停滞
 ⑦仕入単価の上昇 ⑧販売価格への転嫁難 ⑨人件費の増加
 ⑩人件費以外の経費増加 ⑪事業資金の借入難 ⑫従業員の確保
 ⑬販売先からの値下げ要請 ⑭税負担の増加 ⑮DX化への対応
 ⑯インボイス制度への対応 ⑰BCPへの対応
 ⑱その他()

(3) 今後の事業・経営において強化したい点(設備投資・販路開拓等)